

知的財産事例

株式会社青森ホリック

“青森らしい”美しさを伝えたい 個性あるブランドを強みに、複合的な事業を展開

事業内容

2020年設立（2015年頃に開始した個人事業が前身）
観光土産品の製造販売・飲食店経営・ギャラリーの運営

知的財産権と内容

商標第6435448号	浅虫\コリドー
商標第6515492号	Rinkarinka [®] 林香りん果

(2024年6月現在)



代表取締役 金子 祐子さん

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA

多角的に地域の魅力を発信する「浅虫コリドー」

当社は2020年、青森の名産として知られる香り高い木・青森ヒバを用いたお土産物を販売する個人事業を前身に設立。元々美術大学の出身であり、市が主催する団体「版画の街・あおもり」の会長も務める金子代表のセンスと経験を活かし、こぎん刺しをはじめとする青森の伝統工芸の魅力を広めるために立ち上げた。関東出身で、結婚を機に青森へ移住した金子代表。地元民ではないからこそ、生活者として青森で暮らしつつ、旅行者の視点も失わずにすることが発想の原点だ。当初はコネクションもなく一からの出発だったが、商品の売上・利益を少しずつ伸ばし、開発・販売の資金をつくる、といった着実な方法で実績を積み重ねてきた。カフェのあるギャラリーの開店をきっかけに法人化し、現在は複合的な事業を展開している。

青森ヒバの長所を活かした無二の製品を追求

知財を取得したきっかけは、当社の代表的な製品である「ヒバのバスターイ」の開発だった。従来のヒバ製品は、まな板やへらなど実用的なものが一般的だったが、お土産としても魅力的な、遊び心のある製品を作りたいという想いを込めて開発したものだ。腐食しにくく、濡れるとかぐわしさが際立つヒバの特性を活かし、入浴時間を充実させるユニークな玩具に仕上げた。

購入者の好みに合わせてアヒルやペンギンを象ったデザインは、お湯に浮かべた時に映えるよう重心にもこだわっている。その形状やアイデアを模倣されたくないと思っていたところ、製品について相談した産業技術センターで意匠の取得を勧められたという。金子代表は過去に大手おもちゃメーカーに勤務していたことから、商標等の知的財産権の存在は早くに認知していた。しかし、自力で取得した経験はなかったため、産業技術センターや紹介を受けたINPITの支援には助けられたという。特に「商標を使用できるか、どの分野でなら取得できるかなどの調査を任せられるのが時短や効率化に繋がった」と話した。

ブランドごとに多彩な商標を取得

取得の契機となった意匠は既に失効しているが、その後も店名である「浅虫コリドー」や、こぎん刺し製品の「つきよの森」、石鹸や入浴剤などを取り扱う「林香りん果」など、複数のブランド名で商標を取得。「特に知財の効果を感じたのは商品の導入段階だ」と金子代表は話す。当社の取引先は高級ホテルや県立美術館、県の物産協会など、知財の重要性を把握しているところが多いため、ブランドの信頼性を伝える上で知財の存在は大きかった。また、現在はシカやクマなどの獣害対策の副産物としてのジビエの革の有効活用に向けた新たな試みにも力を入れている。これは「津

軽塗」と呼ばれる伝統工芸で培った、職人の漆の塗り
の技術を活かすもので、津軽塗の需要が減りつつある
中、塗職人が津軽塗以外でも活躍の場を広げるとい
う意味で期待が高まっている。こちらもブランド化や商
標登録を検討しており、青森の伝統工芸の魅力を知
てもらえるよう、いずれは全国的な販促も考えている。
「今後はそれぞれのブランド力を高め、自信を付けて
から販路の拡大にも臨みたい」と金子代表は語った。

商標が却下されても果敢に行動



「知財に関しては専門家を頼ることを心がけているた
め、知財取得にあたって苦労したことはほとんどな
い」と話す金子代表だが、これまでに取得が認めら
れない商標もあった。それが、こぎん刺しを紹介する
キャラクター『こぎんちゃん』である。既存のキャラ
クターに響きが類似している、との理由で却下された。
そこで、金子代表はそのキャラクターをデザインした
アニメ制作会社へ自ら連絡し、ことの経緯を相談した。



カフェとギャラリーが一体となった「浅虫コリドー」には、オリジナル商品も並ぶ

すると、名称の使用を快諾されたため、商標は依然取
得していないものの、相手方公認のキャラクターとし
て今も活躍しているようだ。

知財取得を目指す経営者へのメッセージ

注目!

「自分にできることは限界があるので、まず相談する
ことをおすすめしたい」と金子代表は話す。知財を取
得したいという経営者に向けて、各自治体では様々な
取り組みが行われている。「早くに近道を知った方が
効率の良い取得・活用に繋がり、時間もお金も無駄に
ならない」と続けた。また、併せて「事業については、
まずはやりたいことのイメージに近い画像や資料を多
く集め、具体的なイメージを固めてから始めることも
大切」とも語った。他者のアドバイスに耳を傾けすぎ
ると、自分の理想から離れてしまう恐れがある。信念
がぶれないよう、最初に自分がやりたいことを明確に
イメージすること。そうすれば商標（ブランド）は、
製品の魅力をより雄弁に語ってくれるはずだ。



伝統工芸『こぎん刺し』の技術を活かした、温かみを感じられる小物たち



知的財産活用のポイント

こだわりと信念を大切に 異業種ならではの意見にも耳を傾ける

商標やロゴマークは“情報”と“イメージ”の2点からなるが、
それらが分かりやすく、キャッチーな優れた商標は既に取得さ
れているケースが多い。当社の場合には既に個性が完成されて
いたことや、イメージがしっかりしていたこと、言葉との相性も
考えられていたことなどが強みとなり、他とは被らないブラン

ド名やロゴマークを展開できた。この点からも、金子代表のポ
リシーである「最初にイメージを固める」ことの重要性がうか
がえる。また、金子代表は弘前工業研究所が主催する「ビジネ
スデザイン活用研究会」にも積極的に参加し、異業種の経営者
同士で意見交換・情報提供を行っているようだ。培われた経験
に加え、確固たるこだわりとパイタリティ溢れる行動力が、ス
ムーズな知財取得・活用に繋がった。

COMPANY DATA

取材：2024年6月

企業名：株式会社青森ホリック 所在地：青森県青森市浅虫螢谷7 浅虫コリドー 電話番号：017-752-1260

URL：<https://asamusi-corridor.com/> 創業：2020年 資本金：50万円 従業員：5名

